作文コンクール“Leading to the Future 未来に向かって～教育・夢・感動～”

2020年 最優秀賞作品「主体性を育む教育の必要性」

大阪府立豊中高等学校２年　高田一弥さん

「コロナ禍において文化祭を成功させる」

実行委員長になった私の目標は簡単に達成できるものではありませんでした。今年は例年とは情勢が大きく異なり、感染拡大防止のために様々な課題を解決する必要があったからです。しかし結果として、今年度の文化祭も例年に引けを取らないほど盛り上がるものになりました。今作では、この成功の要因とそこから考えられる今後の教育のあるべき姿についての私見を述べようと思います。

今年度の文化祭は感染拡大防止の観点から、お化け屋敷や迷路などの人気企画ができませんでした。また、演劇では舞台上に立つ俳優は話すことができず、舞台袖から俳優の動きに合わせて別の人が声をつけるなどの工夫が必要でした。やむを得ないことですが、実行委員会として生徒の自由な創作活動に制限をかけなければならないのはとても辛く、もどかしい思いがありました。そこで何かできることはないかと考えた私は、生徒にこのような制限やその他のルールを伝える際に、できないことだけではなく、できることも共に伝えるようにしました。また、できないことをどのようにできることにしていくかを考えるよう、促すことも心がけました。すると、始めは例年以上の制限から暗い表情を見せていた生徒たちが、だんだんと前を向き、どのような工夫を施せば良いかを考えてくれるようになったのです。その結果、提出された企画書に目を通すと、VR を用いたり、テレビゲームを体験型にしたりと、感染予防と楽しみを両立できる今まで以上に工夫を凝らしたものが多く出てきました。これは生徒たちが主体性を持って、今の自分達にできることは何かを考えてくれた結果であると思います。

しかしながら、この主体性は全員が持てているわけではないのが現状です。私が文化祭の準備期間中に巡回していた際には、生徒全員が積極的に作業を行い、自分の仕事が終わるとリーダーに指示を仰ぐ様子が見受けられるクラスと、積極的な生徒、消極的な生徒に二極化してしまっているクラスがありました。仕上がった出し物を見てみると、やはり前者のクラスの方がより画期的なものができていたように思えます。このことから私は、全ての生徒が能動的に取り組める環境を作ることができれば、その行事がより良いものになるのはもちろんのこと、生徒一人一人が主体性を持ち、社会で活躍できる人材に成長していくのではないかと考えるようになりました。

主体性は社会人の基礎力の一つに挙げられるほど、今日の社会で求められる力であり、それを育成することは教育の責務であると考えます。私は今回の経験から、今後の教育現場では、これまで以上に生徒一人一人が、自ら「今何をするべきか」を考えて動くことのできる環境作りが必要であると強く感じました。

主催　大阪教育大学　府立高校教職コンソーシアム